

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

1. 社会的規範を身につけ、高い目的意識を持ち、希望進路実現に向け、意欲的に勉学に取り組む心身ともにたくましい生徒を育成する。
2. 授業や部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携を深め、感性豊かな生徒を育成する。
3. 安全で安心な教育環境のもと、社会人として自立し、社会に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 山高プロジェクトによる授業力の向上

－ 夢と志をかなえる確かな学力の育成 －

(1) 授業の充実を図り、自ら学び考える力を育てる。

ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒集団を育成する。

3年以内に、国公立大学10名以上・関関同立50名以上の合格（現浪合わせて）をめざす。

また、同様にセンター試験の受験者80名以上をめざす。

イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、家庭での学習習慣を確立させる。

ウ 生徒授業アンケート・校内授業研修・授業参観を行って授業改善策に取り組み、生徒の授業満足度・授業取り組み度・授業理解度の向上を図る。

※平成 29 年度の生徒向け学校教育自己診断の授業に関するすべての項目において肯定的評価 80%以上にする。

(2) 図書活動を推進し、将来への夢や志を育み、自分の進路を探索させる。

ア あらゆる教育活動で、読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。

イ 各教科と連携し年間の貸し出し数 10000 冊以上の維持をめざす。

ウ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取り組みを通じ、英語に慣れしめ、英検や TOEFL にチャレンジする意欲を持たせる。

エ 国語科読書マラソンの取り組みを通じ、読書好きの生徒を増やし、言語活動の充実を図る。

※卒業時に生徒全員が英検 3 級を持ち、準 2 級、2 級を 30%以上が取得している。

2 キャリア教育の充実と希望進路の実現

－ 自立した青年期に相応しい人間性の育成 －

(1) 子どもたち同士の学びあいや学校内外の様々な人々との協働や多様な体験を通して、自尊感情を育て、他者への思いやりにあふれる生徒を育成する。

ア 凡事の徹底を図り規律ある、自主性にあふれた生徒の集団づくりをめざす。

自らの行動を律し規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める生徒集団にする。

イ 将来に夢や目標を持ちその実現努力のために卒業生、同窓会の協力を得て「先輩に学ぶ」機会を設ける。

ウ 部活動入部を働きかけ、入部率を 80%以上、運動部入部率を 70%にする。

※平成 28 年度の学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的評価を 80%にする。

(2) キャリア教育の充実を図るために、高大連携・企業連携を推進する。

ア 高大・企業連携を盛り込んだ 3 年間のキャリアプランを策定し、キャリア教育の充実を図る。

3 安心して学べる学校環境づくり

(1) 規範意識の向上

ア 基本的生活習慣が確立された生徒を育てる。生徒が安心して学習できる、規律ある授業環境をつくる。

イ メディアリテラシー教育に取り組む。

※平成 29 年度末には、遅刻数 1500 件以内をめざす。

(2) 災害時の対応

ア 校内を整理整頓しておく。

イ 災害発生時の登下校の安全確保と生徒が地域でできる支援、役割を考えさせる。日ごろから、地域住民や近隣の幼稚園、小学校、中学校との連携強化を図る。

※教職員や生徒が突然の災害に遭遇しても冷静に対応できるマニュアルの完成、近隣の幼小中学校や地域住民と合同防災・防犯訓練を実施する。

(3) 生徒支援の体制強化

ア 教職員の事務作業時間軽減と生徒情報の一元化と、情報に関する委員会分掌の再編の検討をする。また、これまでの校内分掌の分担内容について見直しを図る。

※文部科学省『学校における教育の情報化の実態等に関する調査』大阪府版で教員の 80%が「わりにできる」を回答する。

(4) 生徒の自尊感情の醸成と地域との交流の拡大・深化

ア 支援学校、地域の園幼小中学校および異文化交流やボランティア参加により共生社会の担い手となる生徒を育成する。

※学校教育自己診断の「国際理解、福祉ボランティア等について学習する機会が多い」という項目の肯定的評価を 80%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
<p>昨年度の結果と同傾向で大きな変化は見られなかった。</p> <p>◆「授業に満足」「授業について行ける」「授業に集中」はそれぞれ 7 割。平素から家庭学習 1 時間以上の生徒は 4 割程度である。少しの家庭学習についていける授業が多くを占めていることが伺われる。進学のニーズに応えるには、キャリア形成における学習の意義を伝え理解させるとともに、引き続き授業改善の取り組みが求められている。</p>	<p>【第 1 回】7 月 3 日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や企業は優秀な女性を求めている。山本高校の女子が多いという強みを生かして、力をつけより一層のキャリアアップを。 ・「防災」が地域とのかかわりをもう一步推し進めるきっかけの一つになるのではないかと。自分が地域社会で何ができるか、何をすべきか考える機会になる。

<p>◆学校生活が楽しい8割、進学してよかった8割5分、行事に満足9割弱、落ちついており人間関係のトラブルが無く過ごしやすいが9割弱等、また教員に対しても「生活指導に対して納得できる」65%「問題を見逃さず対応」53%、学校の施設は設備されている75%など、学校生活に対して高い肯定感をもっている。その一方で、部活動参加者が少しずつ減少傾向であることや、人権を学ぶ機会63%、清掃活動66%、地域交流などのボランティア的な活動4割弱、などの項目の評価は低目である。</p> <p>◆家庭生活状況は、「保護者とよく話す」83%、「毎日弁当持参」83%、「毎日朝食を家でとる」75%、「アルバイトをしていない」57%、などから学校に協力的でしっかりした家庭の姿がうかがわれる。</p> <p>◆多くの山高生は、学習や行事においてゆったりした高校生活を満喫しているが、頑張っ得られる楽しさ(充実感)を享受している生徒はそこまで多くはないと思われる。部活動、生徒会活動(委員会活動を含む)、清掃活動、地域交流などの奉仕的な活動などの機会を増やす事が、社会性を育みキャリア形成に繋がるとともに学習面への波及効果も期待できる。</p>	<p>【第2回】12月1日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーを示して選抜する時代。学校は教育の質を保証し次に送り出す義務がある。 ・「山高は自由」というだけで無く生徒が自主的に考えて行動するという良いイメージがある。人気の理由は何かを明らかにしてゆく必要がある。その上でどのような力をつければよいかを考えて欲しい。 <p>【第3回】2月5日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山高を志望する生徒層は、中学3年時点で大学進学を強く志望する生徒それほど多くないと思われる。生徒や保護者は「多様でかつ質の高い体験」を山本高校に求めている。だからと言って、大学進学の旗は決して降ろしてはいけないと思う。 ・成果があらわれるのが遅い生徒もいるが、いつか開花するためには、些細な事でもよいから継続的な努力を1年間続けることが大切。それが自信となってやる気につながる。そのような訓練を1年生からやっていけたら、3年生の頃には結果が変わってくると思う。 ・いろいろな活動に取り組んでいるが、生徒自らがPRしていくことが大切。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 授業の充実を図り、自ら学び考える力を育てる。 ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標に向かって努力する生徒集団を育成する。 イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、家庭での学習習慣を確立させる。 ウ 生徒授業アンケート・校内授業研修・授業参観を行って授業改善策に取組み、生徒の授業満足度・授業取組み度・授業理解度の向上を図る。</p> <p>(2) 図書活動を推進し、将来の夢や志を育み、自分の進路を探求させる。 ア あらゆる教育活動で、読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢」、「志」を考える機会環境づくりを図る。 イ 各教科と連携し年間の貸し出し数10000冊以上の維持をめざす。 ウ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを進め、英語に慣れし英検や TOEFL に挑戦する意欲を持たせる。 エ 国語科読書マラソンの取組みを進め、読書好きの生徒を増やし、言語活動の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 進路指導部・担任団・教科担当者が、組織的に生徒に働きかけ、大学進学者全員を、2・3月入試まで主体的に勉強させる。 ・国公立大学・関関同立合格者数30名以上、センター試験受験者60名をめざし、中期的目標達成への第一歩とする。 イ 各教科が連携し、宿題や予習・復習などの課題を課すことで、一日平均家庭学習の時間を、入学時より多くさせる。 ウ 生徒授業アンケートの結果をもとに、自己・教科で改善の方法を考察する。 ・初任者、若手に限らず、全教科・全教員が校内研究授業を実施し授業改善に取り組む。 ・公開授業週間中に、教科内授業見学を実施する。</p> <p>(2) アイ 国語科・英語科以外の教科において、図書館の活用・読書習慣に結び付ける学習内容を考察し、実践を進める。学習内容に関連する、生徒の興味・関心を惹く図書を紹介し、読書活動を促す。 ・生徒会と図書委員会が合同で、ミニ読書感想発表会やイングリッシュ発表会を開催する。 ウ Graded Readers の蔵書数をさらに充実させる。 ・1年生全員が英検3級を受検し取得をめざす。 全員に放課後面接練習を実施する。 夏季休業中に準2級以上の受検者に集中講習を実施する。 エ 国語科と図書館が連携して、学習単元を補完・補強・さらなる分野に敷衍するような推薦図書・関連図書を生徒に紹介し、読書活動を促す。</p>	<p>(1) ア「学力生活実態調査」のB・Cランクをそれぞれ前年比10%増加 ・国公立大学、関関同立合格者が30名以上。センター試験受験者60名以上。 イ 学校教育自己診断における家庭学習時間1時間以上の生徒を年比25%以上に、家庭学習時間ゼロの生徒を前年比25%以下にする。 ウ 新採から10年以内全員の研究授業を2学期に各1回実施。 全教科内研究授業の実施。 学校教育自己診断で授業に関する肯定的評価80%。</p> <p>(2) アイ 図書委員を通して、読書を勧める活動を展開。 ・図書委員を中心に読書感想発表会を図書館で2回開催する。 ・貸し出し10000冊以上。 ウ Graded Readers 5000冊。 ・1年生全員英検3級取得。校内、準2級と2級の合格者50名。 エ 読書マラソン提出カード生徒平均5冊以上。</p>	<p>(1) ア B3 ランク以上の累計(摂神追桃以上レベル)が37%(昨年度)から46%に9%増加、C1 ランク以上の累計(4年制大挑戦レベル)52%(昨年度)から59%に7%増加した。(○) 関大21、同志社8、立命2、関学4、計35名(現浪合わせて)(○) ・センター試験受験者61名(昨年49名)(○) イ 平日の家庭学習時間1時間以上42.7%(昨年37.1%)、ほとんどしない30.4%(昨年32.6)宿題を増やすなどの取り組みにより、昨年度より改善したが、目標にはほど遠い。(△) ウ 研究授業は新採教員のみに終わった。(△) 授業に関する項目 満足している70%(昨年73%) ついて行ける70%(昨年65%) 集中して取り組んでいる70%(昨年70%) 目標の80%を下回り、昨年度並みであった。大学受験に対応しつつ「分かったと実感させる授業」を作り出す事が継続課題である。(△) (2)ア、生徒図書委員の図書館便りやポスター、ポップの制作を行い本の紹介を行う活動に取り組んだ。(△) イ、国語科と連携し読書マラソン(1・2年)、長期休業中の課題図書などの取り組みを行った。 ・貸し出し数は10083冊)で昨年より増加。(昨年度9290冊)(◎) ウ、Graded Readers の貸出数は4832冊(○) 英検 1年生全員の英検受験は実施できなかった。英語科と学年が協力して体制づくりをする必要がある。 英検 3級:受験19名,合格15名 準2級:受験17名,合格9名 2級:受験8名,合格2名 (昨年度:3級5名,準2級3名,2級0名)(△) エ 1・2年生において実施した。 1・2年とも平均7冊弱(○)であった。</p>

<p>2 自立した青年期に相応しい人間性の育成</p>	<p>(1)子どもたち同士の学びあいや学校内外の様々な人々との協働や多様な体験を通して、自尊感情を育て、他者への思いやりにあふれる生徒を育成する。</p> <p>ア 自らの行動を律し規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める生徒集団にする。</p> <p>イ 将来に夢や目標を持ちその実現努力のために卒業生、同窓会の協力を得て「先輩に学ぶ」機会を設ける。</p> <p>ウ 部活動入部を働きかけ、入部率を80%以上、運動部入部率を60%にする。</p> <p>(2)キャリア教育の充実を図るために、高大連携・企業連携を推進する。</p> <p>ア 高大・企業連携を盛り込んだキャリアプランの策定によるキャリア教育の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒会役員会の定期的開催、生徒会主催の自主的取組みを実施し、生徒会活動の活発化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会部が中心になって、生徒会執行部、生徒各委員会などの活動の組織化を図り、生徒の自治意識を高める。 ・生徒が特に関心を持つ「体育祭」「文化祭」における計画運営面で生徒の活躍場面を増やす。特に、部活動予算(部活動費)の決定プロセスに生徒を関わらせる。 ・各学年において「校外学習」「球技大会」「修学旅行」などを自治意識を育てる場面と位置付ける。これらにより、現状以上の「自主と規律」を促す。(生徒らの活躍する舞台を生徒自身で作上げる) <p>イ 同窓会の協力のもとに各分野で活躍されている人や、在校生に近い年度の卒業生を招き、将来の進路選択、職業選択の参考や指針となる機会をつくる。1年生、2年生は、同窓会の協力を得て生き方や考え方の参考になるものを、3年生は、年齢の近い先輩から体験談を聞くなど進路選択にかかる経験交流会を実施する。</p> <p>ウ 1年生の部活動への入部率アップをめざし、中学校とのクラブ交流</p> <p>(2)</p> <p>ア 進路指導部を中心に現状分析と課題をふまえ、キャリア教育計画策定の取り組みを進めるとともに、推進同世代、年少者世代との交流に加え、学校協議会・同窓会・地域の協力を得て、大学生との交流や、企業との交流を通じ、社会人との関わりを増やす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断・生徒用「学校に行くのが楽しい」「山高に進学してよかった」「山高の学校行事に満足している」「山高の部活動に満足している」「人間関係のトラブル(いじめ、嫌がらせを含む)が少なく、落ち着いた環境で学校生活を送ることができる」、保護者用「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている。」などの項目において、肯定評価90%をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数が昨年度の10%減。(平成26年度2077名) <p>イ 学校教育自己診断の生徒向け項目の「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」に肯定的評価が85%以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・同窓会と連携し「先輩に学ぶ」を継続実施。 <p>ウ 1年生の入部率80%。運動部入部率60%以上。(平成26年度1年生入部率75%、運動部60%弱)</p> <p>(2)</p> <p>ア キャリアプランの策定 近畿大学生との交流および企業見学を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各項目の肯定評価の割合は次の通りで、昨年度並みであった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい82%(昨年83%) ・良かった86.7%(昨年88%) ・行事満足89%(昨年91%) ・部活動満足64%(入部者80.2%)(昨年79%) ・トラブル少ない89%(昨年87%) ・生徒が生き生き79%(昨年88%) ・遅刻数1659回(昨年2077回) <p>毎年確実に減少している。(◎)</p> <p>イ 68%(昨年69%)で横ばい(△)進路HR(年3回)講演会(年2回)などを実施しているが、新課程になり、2年生の総合的学習の時間が無くなったことが関係する。進路HRの内容や持ち方に工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会の協力を得て、11月に1年生対象に全体講演会、1月に2年生対象に8講座に分かれて講演会を実施した。(◎) <p>ウ 全体の入部率69%、1年生の入部率70%(内運動部42%)昨年度に比べて1年生特に女子の入部率が低かった。(△)</p> <p>(2) 昨年同様、2年生全員で近畿大学見学会を実施し、生徒の評価は高かった。大学生との交流や企業との交流は実施できていない。(△)</p>
-----------------------------	--	--	--	--

府立山本高等学校

<p>3 安心して学べる学校環境づくり</p>	<p>(1) 規範意識の向上 ア 基本的生活習慣が確立された生徒を育てる。生徒が安心して学習できる、規律ある授業環境をつくる。 イ メディアリテラシー教育に取り組む。</p> <p>(2) 災害時の対応 ア 校内を整理整頓しておく。 イ 災害発生時の登下校の安全確保と生徒が地域でできる支援、役割を考えさせる。日ごろから、地域住民や近隣の幼稚園、小学校、中学校との連携強化を図る。</p> <p>(3) 生徒支援の体制強化 ア 教職員の事務作業時間軽減と生徒情報の一元化と、情報に関する委員会分掌の再編の検討をする。また、これまでの校内分掌の分担内容について見直しを図る。</p> <p>(4) 生徒の自尊感情の醸成と地域との交流の拡大・深化 ア 支援学校、地域の園幼小中、および異文化交流やボランティア参加により共生社会の担い手となる生徒を育成する。</p>	<p>(1) ア 生徒に「ベル着」を徹底させるとともに、教員も「ベル着」を励行することにより、授業を大切にすることを高める。 イ 情報の発信伝達、収集獲得について、専門家に全生徒向け講演を依頼、実施する。 ・携帯やPCによる情報通信の危険性についての周知を、保護者向けに、入学式やPTA総会などの機会をとらえて実施する。</p> <p>(2) ア 学習の集中力アップのためにも全校で整理整頓に取り組む。 イ 災害時の避難と安全確保について、近隣幼小中園校長と情報共有を図る。 ・防災マニュアル(地震版)を策定する。</p> <p>(3) ア 「教育委員会情報セキュリティポリシー実施手順の運用」を策定し、情報管理一元化に努める。 ・情報部の新設などを検討する。 ・生徒個人情報を一元管理実施に努める。 ・職員室の掲示板やICTの活用により、放送による連絡が少なくなるように改善する。 ・各分掌の在り方や仕事分担、人数等の見直しを図り、よりよい運営をめざす。</p> <p>(4) ア 八尾支援学校との行事交流、英語出前授業やクラブ交流をさらに充実させる。 ・近隣の幼稚園、小中学校、老人会への交流やボランティア参加をさらに積極的に実施する。 ・校内ビオトープの保護と八尾市主催の花植えボランティアに参加し苗を育て、校内緑化に努める。</p>	<p>(1) イ 携帯やPCによる情報発信の危険性について教職員、生徒、保護者の合計3回研修を開催。</p> <p>(2) ア 教室、職員室、体育館、準備室が整理整頓できている。 イ 近隣幼小中と合同の避難訓練や防災研修を実施する。 ・防災マニュアルの策定</p> <p>(3) ア 「教育委員会情報セキュリティポリシー実施手順の運用」により情報管理の一元化がされている。 職員室の掲示板やICTの活用により、放送による連絡が少なくなる。 ・学校教育自己診断・生徒用「担任以外の相談できる教員の有無」を肯定評価を60%にする(26年度50%弱)</p> <p>(4) ア 学校教育自己診断・生徒用「山高では、近隣の学校と交流する機会が多い」の肯定的評価が60%以上 ・地域や施設へのボランティアの参加生徒数や回数が増える。(平成26年度26回) ・生徒会、近隣のお年寄りで、年2回の植栽活動を行う。</p>	<p>(1) イ 生徒対象には「社会と情報」の授業や人権HRで情報モラルと危険性について指導。(○)今年度に関しては教員向け・保護者向けは実施できていない。(△)</p> <p>(2) ア 各学期末に安全点検を実施している。(○) イ 実施できていない。(△) 防災マニュアル(地震版)、関係機関と最終調整中、次年度早期に完成・配付 (○)</p> <p>(3) ア 情報管理は適正に実施されている。(○) ・担任以外に相談できる教員の有無43%(昨年50%)ただし、相談を必要としない生徒が多数であるのかも知れない。(△)</p> <p>(4) ア 38%(昨年41%)で横ばい。体育祭・文化祭など学校全体での交流以外はクラブ単位、生徒会役員レベルなので、関わる生徒の人数に限られる傾向がある。(△) ・地域の施設へ出かけたり、イベントや行事への参加回数は24回。例年と同じ程度である。(○) ・校内ビオトープの保護、校内緑化については一定の充実が図れたが、地域住民の方と共同での植栽活動はできていない。(○)</p>
-----------------------------	--	--	---	--